令和6年度 第1回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会

グループ討議発言内容

【テーマ | 女性や現役世代が参加しやすい環境づくり】

グループ A

- ① 声掛け。
- ② 引っ張りこむ。
- ③ 子どもと一緒に参加からの役員への声掛け(母親世代)。
- ④ 参加しやすい事業などきっかけ作り。
- ⑤ やってみて後に続ける。
- ⑥ 年功序列をなくす・成功例に学ぶ(越沢そばなど)。
- ⑦ 自分の能力で活かされれば「やる気」になる。
- ⑧ 募集をする(具体的な役割、内容をしっかり示す。SNSの活用)。
- ⑨ 見える化(具体的な役割、例えばカレンダーづくり)。
- ⑩ 否定しない。
- ⑪ おもしろいこと(SNSで募集)をする!!遊びも必要(ホタル狩りなど)。
- ② 年代にかかわらず、アイデアの募集。
- ③ 施策の柔軟化。

グループ B

- ① 女性、若者のイベント役割つける。
- ② 総代会、出席。
- ③ コロナ→色々なことが省略化、簡素化。
- ④ 楽しみ。
- ⑤ 季節のごとの行事、イベント。
- ⑥ 助成金(やる気のあるところに。健康教室とか、束縛は★)。
- ⑦ 女性の枠を作る(女性限定の会)。
- ⑧ 女性が参加しやすい時間帯←日中帯に集まる。
- ⑨ 子どもも一緒、OKにする。
- ⑩ 年齢で区切る(JCのように40歳以下など。若い人同士の方が気軽・話しやすい)。
- ① 友達の紹介(友達を集まりに誘う)。
- ② 飲食できる楽しさ、魅力ある集まり(弁当・お菓子・ケーキ・アルコール・コーヒーなど)。

グループ C

- ① 会議が夜間になる場合、終了時間明記する。←反面、夜間だと女性が出席しづらい。
- ② 年金受給開始年齢がV上がり。参加年齢も高くなる。若手不足。
- ③ 子ども会で終了。
- ④ 女性の団体が無くなっている。
- ⑤ 世帯主が代表で出る←具体的に誰か、息子か嫁か。そのままの声かけだと若手・女性が出づらい。
- ⑥ 会議の終了時間を明確にしたらどうか!
- ⑦ 歴史・文化的なものが根づいている。
- ⑧ 飲みニケーション 若者喜ばない。
- ⑨ 現役世代 夜や休日でなければ参加できない。
- ⑩ 休みはスポ少の送り迎え。
- ① 地域性。
- ② 若い人の意見→否定される→話せなくなる。
- ③ 女性 家から出づらい、家事などしなければならない。

【テーマ2 課題解決に取り組むための新しい連携の在り方】

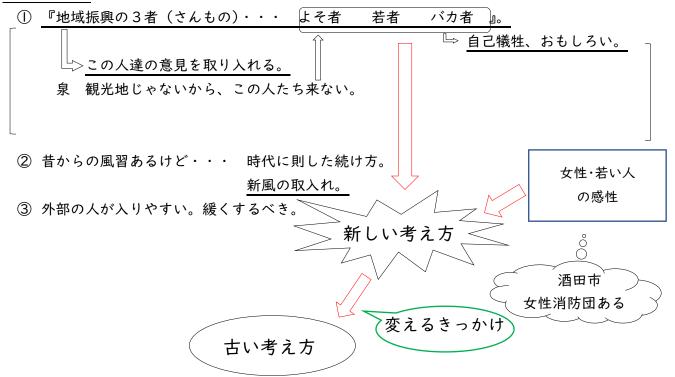
グループ A

- ① 企業・商店・会社との連携。
- ② 地域の特技のある人を発見!紹介→イベントに繋げる。
- ③ 中学校・高校・大学との連携、学生を評価する(高校の探究学習の発表する)。
- ④ 都会と繋がる(旅行社との連携)。
- ⑤ 外国人と繋がる(神輿を担ぐなど、SNS発信を通して)。
- ⑥ ユーチューバーと繋がる。
- ⑦ 国際村チームと連携。
- ⑧ JA、SEADS との連携。
- ⑨ 地域企業を活用した住民の参加。
- ⑩ 情報共有。
- ① 隣合う町内会との協力。

グループ B

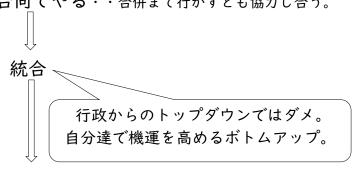
- ① 福祉部門(ボランティア) ― 社会福祉協議会。
- ② 町内会 草刈り・アメシロ ― 業者に依頼(役員負担軽減)。
- ③ 高齢化で色々できなくなってきた ― 行政から委託があっても誰もやる人がいない。
- ④自治会内 LINE グループ一 災害。
- ⑤ 文化財 取組み方
- 一 小・中学校との連携、郷土愛。
- ⑥ 一人暮らし ごみ出し
- ― 近所・隣組⇒自治会で取組み。
- ⑦ 自治会同士、町内会同士の連携





④ 自分達の地域 = 他の地域。

T 自分達だけだとままならない = 合同でやる・・合併まで行かずとも協力し合う。



得意なことをやれる

- ⑤ 中央高校(福祉)、山大(花笠サークル)からの協力。 □ 各町のサロン、会食サービス、認知症サポーター養成講座。
- ⑥ 地域包括支援センター」よっぱの湯を会場に『認知症カフェ』(終活の講座→悩みの共有)。地域資源の有効活用
- ⑦ 行政(仲介役)から声掛けがあれば助かる。 「こんなことで困ってるなんよの~」→『ここに相談してみてはどうだ?』

公園管理避難所

- ⑨ 夏まつり→ キッチンカー 大人気運動会の反省会町内女性の手作り ⇒ 業者の仕出し。
- ⑩ 隣集落、得意な人から役員になってもらう。